

四島のかけ橋

第44号
平成21年1月1日
(木曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県民会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-1111 内線3890
発行人 綾井 祐一



2009

冬来りなば春遠からじ——東京都千代田区九段北 靖国神社

迎春

第24回県民大会を開催

会場は横浜情報文化センター

北方領土返還要求運動 二名に達した。

また、司会者による壇上

演(内容)部2面があり、佐瀬氏の判りやすい弁舌と迫力は、参加された方々に大きな感銘を与え、同、七時五十分、白石副会長(連合神奈川会長、当時)の閉会の言葉で終了した。

北方領土返還要求運動 二名に達した。定刻六時、久保田政宏事務局長(連合神奈川副事務局長)の司会による開会の言葉に続き、主催者側を代表して、榎本会長の挨拶、来賓として、松沢成文(神奈川県知事、独立行政法人北方領土問題対策協会)、「北対協」間瀬雅晴理事長の、去る昭和60年結成以来二十有余年に亘る活動への敬意と、今後の運動への期待をかけた激励の言葉をい

また、司会者による壇上の本会議役員の紹介があり、綾井事務局長の当会議の活動報告があり、全員の拍手で承認され、続いて、「四島の海と大地から」と題するビデオ(映像で見ると、大会の主題である記念講演としては、「いま、北方領土返還運動にながら必要か」と題する、防衛大学校名誉教授、佐瀬昌盛氏の講演(内容)部2面があり、佐瀬氏の判りやすい弁舌と迫力は、参加された方々に大きな感銘を与え、同、七時五十分、白石副会長(連合神奈川会長、当時)の閉会の言葉で終了した。

佐瀬昌盛氏

昭和九年大連(現中国)にて出生。当年74歳。昭和三年東京大学教養学部卒業。昭和四九年防衛大学校教授を経て拓殖大学教授等歴任。「変わる日」関係「ロシア人からの88の質問」等著書多数。

会員団体名(45団体)

神奈川県商工会議所連合会	神奈川県市議会議長会
日本労働組合総連合会神奈川県連合会	神奈川県市長会
日本青年会議所関東地区 神奈川ブロック協議会	神奈川県社会教育協会 神奈川県社会福祉協議会
神奈川県農業協同組合中央会	神奈川県傷痍軍人会
神奈川県漁業協同組合連合会	神奈川県商工会連合会
神奈川県地域婦人団体連絡協議会	神奈川県神道青年会
神奈川県経済同友会	神奈川県信用金庫協会
神奈川県	神奈川県造園業協会
神奈川県医師会	神奈川県タクシー協会
神奈川県遺族会	神奈川県中小企業団体中央会
神奈川県エルピーガス協会	神奈川県町村会
神奈川県看護協会	神奈川県町村議会議長会
神奈川県観光協会	神奈川県トラック協会
神奈川県議会	神奈川県病院協会
神奈川県軍恩連盟	神奈川県民生委員児童委員協議会
神奈川県建設業協会	神奈川県立高等学校長会
神奈川県工業協会	川崎市地域女性連絡協議会
神奈川県郷友会	隊友会神奈川県隊友会
神奈川県公立小学校長会	日本公認会計士会東京会神奈川分会
神奈川県公立中学校長会	北方領土返還神奈川促進会
神奈川県歯科医師会	横浜銀行協会
神奈川県私学団体連合会	横浜市女性団体連絡協議会



拓殖大学海外事情研究所客員教授
防衛大学校名誉教授

2月7日(土)は「北方領土の日」

毎年、二月七日は、「北方領土の日」です。これは、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るために設けられたもので、昭和五十六年一月六日の閣議により決められています。二月七日は、一八五五年のこの日(旧暦では安政元年十二月二十一日)伊豆の下田において日魯通好条約が平和裡に調印された日です。

この条約によって、日露両国の国境が定められ、択捉島など北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確にされました。この歴史的な意義と、平和的な交渉によって、領土の返還を求める運動の趣旨から、二月七日は、「北方領土の日」として最も適切な日とされました。

本年も二月七日(土)、東京都千代田区の九段会館で、全国大会が開催されることとなっています。この日、内閣総理大臣の挨拶があり、壇上には自民党から共産党に至るまで与野党代表の国会議員が居並び、文字通り国民的集会と成っております。詳細につきましては、別途、事務局から加盟団体へご連絡しますので、ご参加をお願いいたします。

灯台

本紙巻頭の写真を見て、何か奇異に感じられた方があられるかも知れぬが、別に他意はない。

これを掲載したのは、写真の下端にあるように、「冬、来りなば春遠からじ」の言葉にふさわしいと思ったからである。私ことだが、かつて「言われた『戦争を知らない世代』が、定年退職する時代になっても、あの戦争時代を思い出しは憂鬱になる。若かりし頃、よく「今、一番嬉しいことは何だ?」と聞かれ、即座に、「兵隊にとられないことだ。」と答えたものだ。あの頃、年齢が十代で良かったと、つくづく思う。

志願(自分からすすんで兵役を求めること)は別として、兵役に服した人達は、大正生れの青年たちだった。そしてその大半は、亡くなられていると思う。もし、「人生とは時代がつくる」としたら、戦争程、残酷で非情で無惨なものはない。敗戦なら尚更である。

「北方四島問題」も、戦争、そして敗戦が生んだものと言えよう。北方四島「がソ連(現ロシア)に占拠されてから六十二年が経過した。当初、「領土問題は解決済み」と相手にされなかった時代から、「東京宣言」で四島の島名が確認され、「ビザなし交流」に至るといふ時代と変わった。領土問題を外交交渉で解決する困難さは判るが、運動を続けるのは、次の世代へが今後の課題となる。その為の努力をしたい。

四島(しま)返還 あなたの声こそ力です

平成20年度北方領土に関する標語 最優秀賞 京都市佐々木みほ氏



防衛大学校名誉教授 佐瀬昌盛氏

いま、北方領土返還運動に なにが必要か(要旨)

「北方領土問題は63年経過したが全然動いていない」は嘘

今日は神奈川県民会議のみなさんに私の念願していることをご理解いただき、実現していただきたい私の思いを述べさせていただきます。

よく「第二次世界大戦が終わり63年経過したが、北方領土問題は全然動かない」と言います。しかし、この63年というものをよく吟味した方がいいと思います。

北方領土問題が生まれたのは63年前のことです。また、日ソ共同宣言が採択された1956年には、北方領土問題が政府交渉の中の非常に重要な問題でありました。しかし、同時に国民運動が組織的に盛り上がり

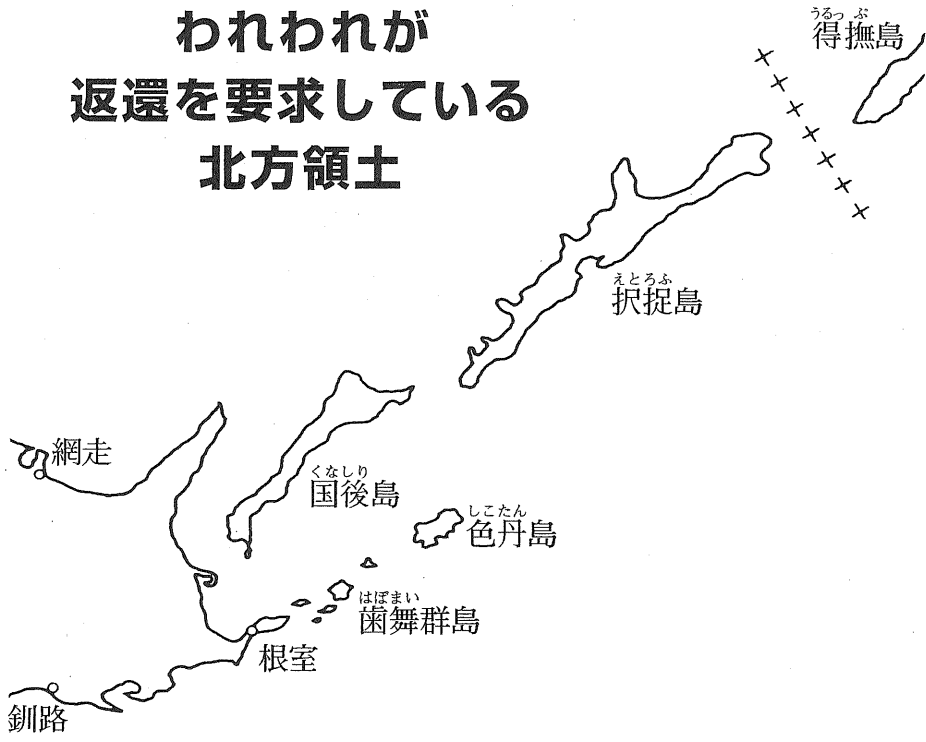
ロシアとの関係性について

また、ロシアの出方というのを私は考えてみたいと思います。先にも述べましたが、ラブロフ外相は問題が存在し解決が必要なこと

また、氏は、毎年行われた北方領土返還をテーマにした「国際シンポジウム」のコーディネーターとして活躍され、当県民会議第七回大会(平成3年11月16日)には、記念講演をしていただいた事がある。

北方領土返還運動の原点である根室への支援

北方領土問題を最初から重視して、この問題をマツカーサーに最初に伝えたのは根室町長です。従って、根室は北方領土問題の原点と言われています。但し、今日の根室はかなり残念な状況にあります。根室は水産業がメインな産業の都市ですが、実際には四島をロシア側が実行支配しています。従って、世界の中で有数の漁場も日本領とは認められていません。このままでは、苦しい根室にとって魚の方が大事となり、「領土」よりも「魚」という声



われわれが返還を要求している北方領土

おめでとうござります 本年もどうぞよろしく

編集後記

◆明けまして、おめでとうございます。本年も「四島のかけ橋」を、よろしく。◆佐瀬先生のお話、実に明快で、聴きほれました。紙面の都合上、一部を割愛させて戴きました事を、お詫びします。◆不況で、暗いニュースばかり、何とか元氣を出して、みんなで乗りきりましょう。一面の「灯台」に記したよう、「冬来りなげ……」であります。(蓮見)